

「これからの社会に必要な子どもたちの教育のために」講演会 感想

- ・ 学校の名前を自分たちできめたことは、いいと思いました。わたしも、少しきめてみたいとおもった。かいがいと日本のべんきょうのやり方がぜんぜんちがってびっくりした。今日は、とおいばしょから来てくださって、ありがとうございました。
- ・ 理想の学校=理想の社会、その通り！ But 現実の学校（教員の社会）は教員を縛りに縛る所になりはて、教師の創意工夫やアイデアなど、入る余地はないと聞きます。こんな学校にしたのは誰なのでしょう。40年前私が学校にいた頃は教員同士が議論しあい、工夫しあって学校を創ってきたと思うのですがそんな教育、そんな学校を改悪してきたのは学習指導要領だったと思います。どんな学校、どんな教育にしていくかを考えるには、どんな教師を育てるかにかかっていると思うのです。
- ・ 子供の数が少なくなり親のカン視・学校のカン視がきびしくなる。私の学校のころは人数も多く先生の目をかいくぐって自由なことが出来た。今はそれが無い。人数が少ないからこそ、話し合っ決めて行く方法は良いことだ。学校の教育とは、新しい考え方は実体験の大切さと思った。昔から読み書きソロバンが出来れば良いことの大切さ。
- ・ 今自分は現状の学校組織の中で、生徒を育てるのに精いっぱいですが、学びの価値観をアップデートしていかなければならないと感じます。つい、違いは社会で認められないと考えたり、配慮は甘えなのではと心の内では考えてしまいますが…ルールがないことを恐れる大人たち、対話を重視したり、自分の興味に従って学ぶこと、学校は「社会に出るための練習」と考えがちですが、すでに「社会に出る場」なんですね。理想の学校は理想の社会 遊びは上下関係があると遊びにならない。関係性の構築が対話の土台。素晴らしいお話、ありがとうございました！
- ・ 対話力が大切だと思いました。AIとの対話はAIが何を学習するかにかかるといいます。ひとりひとりを大切に、お互いを認め合い、ちがいを話し合うことが大切かと思いました。ありがとうございました。
- ・ 「信じて、まかせて 待つ」対話する学校、対話する社会、対話する家庭、対話は話すだけでなく肌感覚からも多くの情報やりとりができる 自然もそう、1人1人のBio PC（バイオ コンピューター）を信じる（身体を聴く）ことが共育だと、現場で感じてます。公教育 過渡期ですが、希望は感じてます。
- ・ とても希望的な気持ちになりました。ありがとうございました！大島でのとりくみのこれからもたのしみです。
- ・ 友人に不登校の子供をもつ親がいます。今回大島町の新しい学校の取り組み楽しみにしています。
- ・ 「対話」の大切さを改めて思いました。人と人との基本だと思いました。夫婦生活でも親子でも友人でも職場でも基本だと思いました。
- ・ コミュニティスクール？ 学校は学校だけにおまかせしてしまうのではなく地域や保護者も入ることで変わっていくのだと思いました。目指したい学校の姿=社会の姿なんだと目からうろこでした。ありがとうございました。

- ・ 多様性のある学校を目指していけるのはとても素晴らしいと思います。詰め込みで勉強していた子達が、どんな変化をするのか、楽しみです。
- ・ 本日はありがとうございました！学びを子どもたちが選択していく学校作りをしていきたいです。
- ・ 対話の重要性を学びました。不登校生徒のための教室が本校にもありますが、対話の学習のようなものは取り入れておりませんでした。対話により生徒の変容が見られることが、講演の中で知りました。生徒の特性や状況に合わせて、対話を取り入れたカリキュラムが不登校生徒の成長の一步になると思いました。ありがとうございました。
- ・ 先進的な私立学校ではなく、公立学校での取り組みのお話を聞いて、勇気付けられました。多くの公立学校でこのような取り組みがされていくことを願ってます。
- ・ 従来の教育を学んできた私にとって、イエナプラン校を知った時は驚きでした。多様化しているこの時代に合った教育方針だと思います。また、メディア教育が盛んになってきている今日ではメディアに偏り過ぎず、有効的な活用をしながらの自由教育に取り組む事が必要なのではと私は思っています。沢山の学びのあった素晴らしい講演に参加できた事に感謝いたします。
- ・ 参加してよかったなと思える講演でした。大島は小規模で地域の協力も得やすい地域だと思うので、不登校の子に向けてではなく、島全体の学校が学びの多様化学校のようになればいいなと思いました。日本全体で求められる学校だと思うので、実現できれば、その魅力で移住者も増えていきそうだと思います。ありがとうございました。
- ・ 大変貴重な講演をありがとうございました。「35人中22人が、いわゆる“普通”ではない」というお話はとても印象的でした。大人の社会や自分自身を振り返ってみても、確かにうなずける部分が多く、とても考えさせられました。ご紹介いただいた学校では、一人ひとりに合った学びがなされていて、感動しました。自立し、主体的に学んでいくこと、また仲間と共同で学びを深めたり意見を交換したりすること、さらに大島という大自然のフィールドを生かして学ぶことの大切さを改めて感じました。少子化が進み、AIなどの技術革新によって社会が急速に変化していく中で、子どもたち一人ひとりの可能性を伸ばしていく教育のあり方がますます重要になるのではないかと思います。大人たちが固定観念にとらわれず、子どもたちにとって何が最もよいのかを柔軟に考えていく必要があります。イエナプラン、大島でも浸透して行って欲しいです。
また、放課後子ども教室のスタッフとして子どもたちと関わる中で、対話の大切さを感じています。放課後の開放的な雰囲気の中、喧嘩やトラブルもあります。子どもたちが集まった時に、対話する時間を持つことで、より安心して充実した時間を過ごせる場になるのではないかと、今回の講演を聞いて感じました。多くの気づきと学びをいただき、本当にありがとうございました。
- ・ 「普通じゃないことが普通」の学級実態がみられる来年度の3年生。勉強がついていけない児童は、保護者はどんなことを望んでいるかの対話からかなあ。児童とも、ボランティアで行っている草むしりの花壇で話を聞いてみようかなあ。と思っています。

その他、口頭での反響など多数ありました。

